研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190		20-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Gender Convergence in Alcohol Consumption Patterns: Findings from the Korea National Health and Nutrition Examination Survey 2007–2016

アルコール消費パターンの性差 - 韓国国民健康・栄養調査 2007-2016 調査結果から

執筆者

Kang M, Min A, Min H.

掲載誌

Int J Environ Res Public Health Public Health 2020、17、9317.
doi:10.3390/ijerph17249317

キーワード	PMID
アルコール使用、過剰飲酒、性差、韓国人	33322086

要　旨

目的：アルコール使用パターンの男女差は数十年前から縮小している。本研究では、2007 年から 2016 年の間のアルコール消費パターンの変化を調べ、韓国におけるアルコール使用パターンの性差とその要因を明らかにすることを目的とした。

方法：2007～2016 年に実施された「韓国国民健康・栄養調査（KNHANES）」の 12 歳以上の全回答者（女性 41,662 人、男性 32,041 人）について、自己申告式質問票により、生涯飲酒量、現在の飲酒量、飲酒開始年齢、大量飲酒、一時的多量飲酒、酒気帯び運転歴（19 歳以上のみ）を収集した。連続的な従属変数（アルコール摂取量など）は線形回帰を用い、二値的な従属変数（大量飲酒の有無など）についてはロジスティック回帰を用いて、アルコール使用パターンの変化および性差を分析した。

結果：2007～2016 年にかけて、大量飲酒および一時的多量飲酒の割合の男女差は減少し、性別にみると、男性で減少したが（67.5%→63.9%，p＝0.001，63.4%→60.9%，p＝0.001），女性では減少しなかった（50.2%→50.4%，p＝0.279，30.6%→32.0%，p＝0.994）。生涯非飲酒者の割合は、女性（24.3%→19.1%、p＜0.001）、男性（12.1%→9.7%、p＝0.01）ともに減少した。平均飲酒開始年齢は女性で低下（24.1 歳から 23.6 歳、p＝0.017）したが、男性では、有意な変化は見られなかった（18.9 歳から 18.7 歳、p＝0.307）。

結論：韓国では女性のアルコール摂取量は減少せず、健康問題につながる可能性は改善されていなかった。特に、女性のアルコール使用増加に起因する新たな健康リスクの情報を広め、男女別のアルコール使用に関する予防教育および介入を開発することが重要である。